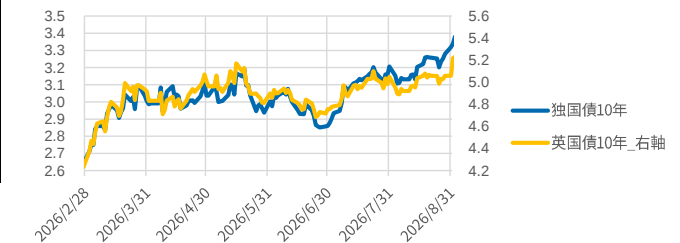
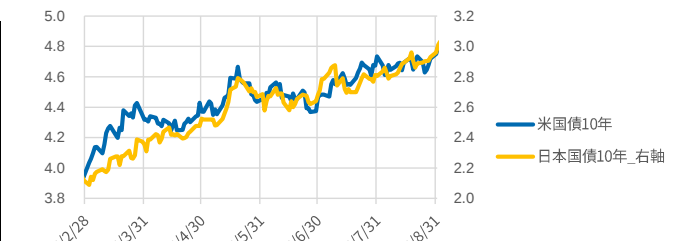
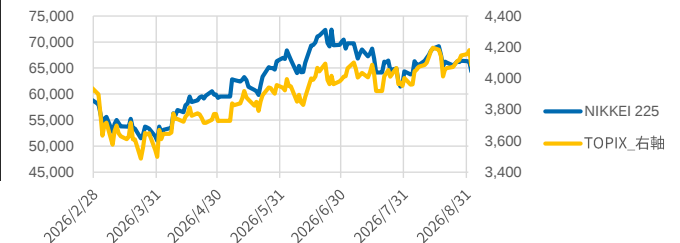
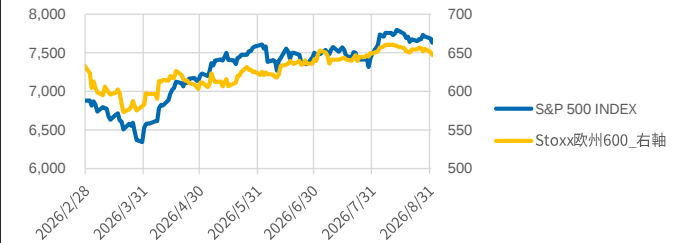


2026年8月の金融市場動向・今後の注目点

2026/9/11

株式	
米国	好決算を支えに最高値更新も、金利上昇で上値重い展開 S&P500は月間で+2.6%上昇。利上げ観測後退、決算堅調という前月末からの追い風の中、ISM製造業景況感等マクロ指標の改善も加わり、月前半には一時最高値を更新。しかし、決算発表一巡後の月後半は、米30年債が19年振りとなる5.3%台をつけるなど、金融政策を巡る不透明感、長期金利の高止まりを受け、上値の重い展開となった。
日本	幅広い物色でTOPIXが一時最高値更新 日経平均は月間+3.0%上昇。前半は、米半導体株高や国内企業の好決算、米利上げ観測の後退を受け、AI半導体株を中心に上昇。その後、中東情勢への警戒や日米の長期金利上昇から急落。後半にかけては日経平均がもみ合う一方、TOPIXはバリュー株などが買われ、月間で+3.8%上昇となり日経平均をアウトパフォーム。
欧州	好決算で最高値更新も、金利上昇で失速 Stoxx欧州600は月間で+0.3%上昇。上旬は好決算が相次ぎ、テックや商品高を背景にした資源株が上昇し、一時最高値を更新。中下旬は、米・イラン情勢の緊迫化、ECB追加利上げ観測の高まり、長期金利上昇が重石となり続落。フランスの財政・大統領選を巡る政局リスクも下押し要因となった。
注目点	AI関連企業の業績動向に加え、利益成長がAI関連以外にも波及するかが焦点。9月は米半導体大手マイクロンの決算（30日）に注目。また、各国中銀の金融政策や長期金利の動向を注視。



債券	
米国	原油高・利上げ観測再燃で金利上昇 米10年債利回りは月間で上昇。月初は弱い雇用統計を受けて低下したが、その後は中東情勢の緊迫化による原油高や、ウォーシュ議長下の金融政策を巡る不透明感から上昇。米財務省による国債買い戻しの拡大で一時低下したものの、月末のジャクソンホール会議での議長のタカ派姿勢を受けて利上げ観測が強まり、金利は再度、上昇に転じた。
日本	利上げペース加速観測と財政懸念で金利上昇 10年国債利回りは月間で上昇。前月末の日米協調為替介入を契機とした日銀利上げ加速観測、消費減税の財源を巡る懸念に加え、4日の10年債入札の低調な結果が重なり金利は上昇、17日には約30年ぶりに2.9%台をつけた。その後も、2027年度予算の概算要求を巡る国債増発懸念やグローバル金利の上昇を背景に、高水準での推移が続いた。
欧州	エネルギー価格上昇と追加利上げ観測の高まりで上昇 独10年債利回りは月間で上昇。月初は原油軟調で低下も、以降は米・イラン協議の停滞に伴う原油高とECB追加利上げ観測の織り込み拡大で上向き。先進各国における財政・国債供給・インフレ懸念が継続する中、月末はジャクソンホール会議を受けた米金利上昇も加わり、独長期金利は15年ぶり高水準に到達。
注目点	FOMC（15～16日）では政策判断や経済・物価認識から今後の利上げ条件を探る一方、日銀政策決定会合（17～18日）では追加利上げに対する姿勢を確認。加えて、ウォーシュ議長によるタスクフォースの進捗報告や為替動向にも注目。

- 当資料は、情報提供を目的として、CCIアセットパートナーズが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- 当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

〔出所〕 bloomberg, CCI アセットパートナーズ